

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (017040832), 法人名 (有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生), 事業所名 (グループホーム蔵発寒 せせらぎ館), 所在地 (札幌市西区発寒2条2丁目3番20号), 自己評価作成日 (令和3年10月11日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのグループホームは、ホームにこもることなく出来るだけ外へ出ることがモットーでした。コロナ禍のため外出がままならない状況ですが、室内でお弁当を食べて気分転換をしたり、体を動かすレクリエーションを増やし、楽しめるよう臨機応変に対応出来る所がアピールしたい点です。例えば、遠足や行楽に行つたつもりで、利用者さんのお好きなメニューで、手作り弁当を食べたり、出張ラーメンや出張お寿司で喜んでもらいました。理念の中には「利用者さんの本当の気持ちを理解しよう」「一人一人の思いをくみ取って笑顔で声をかけよう」と掲げ、毎月、不適切なケアについての検討会を行い、虐待防止、チームケアの構築を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170400832-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月12日(金))

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は、発寒地区の病院やスーパー等に程近く、生活に至便な住宅地に立地している。運営法人は、北区にも2ユニット18名利用のグループホームを展開しており、各事業所間の情報共有や研修の充実が図られている。特に内部研修については、既成の研修資料ではなく、看護師資格を有する管理者による、医療目線も含めた当事業所オリジナルの資料が作成、活用されており、介護職員の観察力等のスキルアップに繋がっている。また、運動機能、残存能力の活性化、今後の多様化する事業所運営を見据え、職員による理学療法士資格の取得、配置を実現している点も高く評価したい。
・職員は理念を念頭に、利用者が出来るだけ自力で、今までと変わらない生活が出来よう、サポート・見守りに注力し、支援している。コロナ禍で制限が多い中、面会の調整、外気浴等、出来る事から取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。さらなる地域に開かれた事業所として、活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届く所に掲げ、毎週、月曜日の申し送り時に、全員で復唱している。	法人理念の他、ユニットごとに職員間で話し合い作成した年間目標を掲げている。また、理念、ユニット目標の達成度について定期的に振り返り、検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年はコロナ禍のため、実施していない。	通例では、地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍のため、実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、代表、管理者で会議をし、地域の方、包括の方には集まってもらわず書面会議とした。	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、集まる機会はなかったが、区役所の生活保護課の方とは、協力しあえた。	行政の窓口とは、定例の運営状況報告の他、運営推進会議や集団指導の場で随時アドバイスを受けており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は開錠しており、出入り自由な状態にしている。身体拘束についても、研修などを通して理解を深めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を経過から終息まで職員間で協議し、繰り返す事のないよう周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンデマンドによる虐待防止研修を受けたり、毎月のカンファレンスでは、不適切なケアの報告や検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍のため、外部、内部の研修を持つ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、代表より丁寧に説明し、理解、納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、家族会は中止。家族とは、電話やメール、ライン、書面による意見、要望を受けとめた。	家族には来訪時や電話で近況を伝えると共に、意見・要望を聞き取り、職員間で検討・共有している。また、ホーム便りを発行し、写真を交え生活状況、体調面を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍のため、リモートによる会議で意見、提案をした。	月例のミーティングや申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、個別の相談には管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	快適に休憩が取れるように休憩室を禁煙にしたり、給料明細を見直し、夜勤手当を単独で給付する事にした。(喫煙者には別の場所を設置)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、オンデマンド、リモートによる研修に参加した。今年初めて、介護福祉士受験のための内部勉強会を実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、感染防止上、活動を取りやめた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、不安や戸惑いを取り除くため、基本情報を中心に、会話や関りを多くもち、要望や意向を引き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約する段階で、直接、不安、要望等を聞き取り、サービスに反映させるように努力している。家族からは、面会時、感染防止の対策をして、利用者の近況を伝え、信頼関係を築くようにした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された時には、基本情報や家族に記入してもらったセンター方式の情報などを職員間で共有し、必要なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来るお手伝いをさせていただいたり、一緒に家事をしながら共同生活を営むようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で思うようにはいかなかったが、感染防止に対処した面会をさせていただいたり、電話の取り継ぎをして関係を支えた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、今年実施していない。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。現状では電話や手紙の機会を増やし、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者みんなで、手作業、レクリエーションをすることによって、関りやお互いを支えあう場が持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍のため、今年は「退去家族の会は実施していない。年賀状を差し上げる程度。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月一回、全員を対象とした総合カンファレンス、個人を対象とした本人参加の個人カンファレンスを行い、生活の見直しや要望を把握している。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にあセスメントを行い、情報共有している。	本人から最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の方にセンター方式を記入してもらい、これまでの生活歴をや情報を把握する。入居前の施設、病院からも介護添書を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間の様子や、朝のバイタルチェック、午前中の手作業、体操の様子などを通して、その日の身体状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回、職員、管理者、代表、本人が参加してカンファレンスを行い、生活の見直しや、状況に応じたサービスの提供に反映させている。	個別ケアによる担当者のモニタリング結果を検証し、本人・家族の意見・要望を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアプランの実行記録などはタブレットの経過記録欄に打ち込み、職員が共有、確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の老人クラブに登録しているが、コロナ禍のため、実際の活動には参加しなかった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人を対象に個別に「フリープラン」(行きたい場所、外食など)を実施してきたが、今年は未実施。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、かかりつけ医の訪問診療を受けている。必要があれば専門医の紹介や受診に結び付けられるような協力体制にある。	本人、家族の要望を聞き取り、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。提携医による訪問診療、事業所に配置の看護師による医療協力体制があり、利用者の健康状態を職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体の変化など、看護師、管理者を通して医師に報告し、適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時、グループホームでの身体状況を記した介護添書や、医師からの診療情報提供書を提出し、利用者に適した治療が受けられるよう関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ターミナルケアについての説明をし、納得の上同意書を取っている。入居中に重度化した場合も、家族、医療関係者、職員と話し合いの上、全員が統一した見解で利用者の終末期に取り組んでいる。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	9月に避難訓練の後、職員の救命救急、心肺蘇生の訓練をした。その後も、小まめに実施する予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対策訓練を2度行い、水害対策については、防火管理者がオンライン研修を受け、職員に伝達講習をしていく。	消防署の参加も得ながら、年2回の火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域の方々には避難後の見守り等、役割もお願いしている。冬季の災害に備えてストーブも用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴の声かけは、遠くから大きな声ではなく、利用者の側に行き行っている。	職員は主に接遇について、具体例を挙げながら日々注意し、相互にチェックすることで、尊厳ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日メニューなどは本人の希望を聞き、取り入れるようにしている。行事食の場合も、お代わりできそうな方には、意向を聞いて食べていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たいと希望があれば、行目の集うにかかわらず、職員が付き添って散歩をしたり、入浴なども無理をせず、本人の希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理美容が受けられるように支援している。服装も自分で選べる人には、自身で準備してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会には好みの物を献立にしている。野菜の皮むき、食器拭き、トレー拭きなどしてもらっている。	現在はコロナ感染防止対策として、食事は距離を保ち、提供している。通例では、職員と同席同食・共作を原則として、楽しみある食事の場としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日を通して、各個人別に時系列に記録している。乳製品も個人のお腹の調子に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各個人が口腔ケアをしている。出来ない利用者は職員が手伝っている。歯科衛生士によるケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人、時間によるトイレ誘導をしている。未排便の日数を把握し、運動を促し、トイレ内での排泄に結び付けている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便の日数を把握し、起床後に飲むヨーグルト、日課の運動、散歩など支援している。トイレ内で座っている時間を長めにする事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者さんが自分から、気持ちよく入れるように散歩をしてから誘ったり、気分転換をしてから入浴出来るようにする事もある。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助や時間帯も利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を工夫しながら安眠出来るように支援している。休憩したい様子があれば、無理をしないで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、回数、用量など医師や看護師から良く聞き理解している。薬情もファイルにしている。薬が変わった場合など、業務日誌に記録し、職員全員が共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの認知度、身体状況に合わせて日常の家事のお手伝い、パズル、チラシ巻き、塗り絵、キャップ並べなど、本人の好きな事に合わせて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出がままならなくて未実施。	通例では、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物やドライブに出かけている。コロナ禍で外出が制限されるなか、職員はホーム行事等、楽しみある企画を検討・開催している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出など出来ないため、お金を使う場面がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、贈り物や手紙が届いた時、お礼の電話をかけられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節に応じた壁飾りを作って掲示したり、行事で撮った写真を貼り、回想し居心地の良い空間作りをしている。	各ユニットの共有スペースは、採光や温湿度に配慮された開放的な空間となっている。居間では利用者が好きな場所で寛いだり、季節が感じられる装飾があり、家庭的でゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	完全に一人になる事はないが、居間のソファでくつろいだり、思い思いに過ごす事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、家族が持ってきた子や孫の写真、なじみの使い慣れた道具を置いて、居心地良く過ごせるようにしている。	居室は自宅で使い慣れていた家具が持ち込まれ、思い出の写真や小物がいつも視野に入る場所に掲示されており、意心地良く、安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室には表札を掲げたり、トイレの表示や緊急時に集合する所の目印を付けてある。		